



スイッチ クイック スタート ガイド



UD3897BA

法的情報

この文書について

- この文書には、製品の使用および管理に関する手順が記載されています。本文中に含まれる図、チャート、画像を含むすべての情報は、説明および参考目的のみを意図したものです。
- 本文中に記載されている情報は、ファームウェアの更新またはその他の理由により、事前の通知なしに変更される場合があります。最新のバージョンは、Hikvisionのウェブサイト (<https://www.hikvision.com>) でご確認ください。別途合意がない限り、杭州 Hikvision デジタルテクノロジー株式会社またはその関連会社 (以下「Hikvision」といいます) は、明示的または黙示的でないがなる保証もいたしません。
- 本ドキュメントは、製品をサポートする専門家の指導と支援を受けてご使用ください。本製品について

この製品は、購入された国または地域でのみアフターサービスサポートを受けることができます。

知的財産権の承認

- ヒクビジョンは、本文中に記載される製品に組み込まれた技術に関する著作権および/または特許権を保有しています。これには、第三者から取得したライセンスを含む場合があります。
- 本文書の一部 (テキスト、画像、グラフィックなど) は、すべてヒクビジョンに帰属します。本文書のいかなる部分も、書面による許可なしに、いかなる手段によっても、引用、複製、翻訳、または改変することはできません。
- HIKVISION** およびその他の Hikvision の商標およびロゴは、ヒクビジョンが各管轄区域において保有する財産です。
- その他の商標およびロゴは、それぞれの所有者の財産です。

法的免責事項

- 適用される法律で許される最大限の範囲において、本文書および記載された製品 (ハードウェア、ソフトウェア、ファームウェアを含む) は「現状有姿」かつ「一切の瑕疵およびエラーを含む」状態で提供されます。Hikvisionは、明示的または黙示的でない保証 (商品性、満足のいく品質、または特定の目的への適合性を含むがこれらに限定されない) を一切提供しません。本製品の使用は、お客様の責任において行われます。いかなる場合においても、HIKVISIONは、特別損害、間接損害、付随的損害、または派生損害 (事業利益の損失、事業の中断、データの損失を含むがこれらに限定されない) について、契約違反、不法行為 (過失を含む)、製品責任、またはその他の理由に基づくものであっても、一切の責任を負いません。システム障害、または文書の損失を含む損害について、契約違反、不法行為 (過失を含む)、製品責任、またはその他の理由に基づくものであっても、製品の使用に関連して生じた場合であっても、HIKVISIONは一切の責任を負いません。
- あなたは、インターネットの性質上、内在するセキュリティリスクが存在することを承認します。HIKVISIONは、サイバー攻撃、ハッカー攻撃、ウイルス感染、またはその他のインターネットセキュリティリスクに起因する異常な動作、プライバシー漏洩、またはその他の損害について一切の責任を負いません。ただし、必要に応じて適切な技術サポートを提供します。
- あなたは、この製品を適用されるすべての法律に準拠して使用することに同意します。また、あなたの使用が適用される法律に準拠していることを確認する責任は、あなたのみで帰属します。特に、あなたは、第三者の権利 (publicity rights、知的財産権、データ保護、その他のプライバシー権を含むがこれらに限定されない権利) を侵害しないよう、この製品を使用する責任を負います。お客様は、この製品を、大量破壊兵器の開発または製造、化学兵器または生物兵器の開発または製造、核爆発に関連する活動または安全でない核燃料サイクルに関連する活動、または人権侵害を支援する目的での使用は禁止されます。
- この文書と適用される法律との間に矛盾が生じた場合、後者が優先します。

©杭州ヒクビジョンデジタルテクノロジー株式会社。著作権所有者。

序文

適用対象モデル

このマニュアルはスイッチに適用されます。

記号の規約

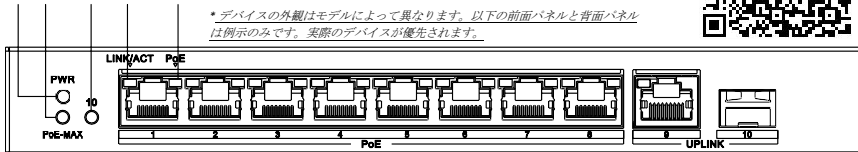
この文書で用いられる記号は、以下のとおり定義されています。

シンボル	説明
	注
	潜在的な危険な状況を示し、回避しない場合、機体の損傷、データ損失、性能の低下、または予期しない結果を引き起こす可能性があります。
	高いリスクレベルの危険を指示し、回避しない場合、死亡または重傷を引き起こします。

① スイッチについて学ぶ

▷ 前面パネル (例)

① ② ③ ④ ⑤



▷ 背面パネル (例)



ポート

PoE RJ45 ポート	RJ45 ポート	SFP 光ファイバーポート	高優先度ポート
10/100 Mbps または ギガビット PoE RJ45 ポート。ネットワークケーブル経由で電源供給デバイス (PD) に接続するために使用されます。	10/100 Mbps または ギガビット対応の RJ45 ポート。ネットワークケーブル経由で他のデバイスに接続するために使用されます。	ギガビット SFP 光ファイバーポート。ポートに光モジュールを挿入した場合、光ファイバー経由で他のデバイスに接続されます。	赤色ポート (または VIP ポート) は、重要なサービス領域でのネットワーク伝送を
① PWR 表示灯	② PoE-MAX 表示灯	③ 光ポートインジケータ	
点灯: スイッチが正常に電源供給されています。	点灯: スイッチが出力電力が上限に近づいていたり、既に到達しています。接続されているデバイスが増加した場合、電源に異常が発生する可能性があります。	点灯: ギガビット SFP 光ポートが接続されています。	
消灯: 電源が接続されていないか、電源に異常があります。	消灯: スイッチは PD に電源を供給していないか、PD に正常に電源を供給していますが、出力電力が上限に達していません。スイッチの出力電力が正常に戻ってから 5 秒後に、PoE-MAX インジケータは消灯します。	点滅: ギガビット SFP 光ポートがデータを送信中です。	
		消灯: ギガビット SFP 光ポートが接続されていないか、接続に異常があります。	

その他

接地端子	リセットボタン	電源	モードボタン	DIP スイッチ
スイッチを雷から保護するために、接地ケーブルへの接続に使用します。	リセットボタンを約 5 秒間長押しすると、スイッチのすべての設定がデフォルト設定にリセットされます。	付属の電源コード (電源アダプタがある場合はそのアダプタも) を使用して、スイッチを電源ソケットに接続してください。	スイッチの動作モードを切り替えるために使用します。対応するインジケータが点灯している場合、スイッチがそのモードで動作していることを示します。	DIP スイッチをオンまたはオフに切り替えることで、Extend モードを有効または無効にできます (スイッチの指定されたポートは、最大 300 メートルのネットワーク伝送をサポートします)。

* 上記のポート、インジケータなどは単なる列挙です。詳細については、デバイス情報をご確認ください。

1

2

デバイス情報▷

QR コードをスキャンして、ご希望のデバイスモデルの製品紹介、梱包リスト、外観を確認できます。



② スイッチの取り付け

実際の要件に応じて適切な取り付け方法を選択してください。
以下の図は参考用です。

Note

開始前に

- デスクトップ、壁、またはラックが安定していて十分な強度があることを確認してください。
- 部屋を十分に換気してください。デバイス周囲に少なくとも10 cmの放熱スペースを確保してください。
- ラック取り付けの場合、隣接する機器の間には垂直方向に少なくとも1.5 cmの距離を空けてください。

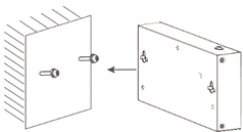
▷ デスクトップの設置

デバイスをデスクの上に置きます。

▷ 壁取り付け設置

手順

1. デバイスの底面の2つの吊り下げ穴間の距離を確認してください。
2. 壁に自作のM4ネジを2本挿入します。
3. 吊り下げ穴をネジと合わせ、デバイスをネジに吊り下げます。



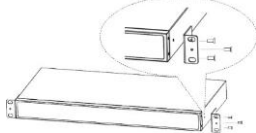
Note

- 壁の耐荷重容量は、デバイスの重量の3倍以上である必要があります。
- 2つのネジ間の距離が、2つの吊り下げ穴間の距離と等しいことを確認してください。
- ネジの本体を壁の外側に少なくとも4mm以上出してください。

▷ ラックマウント取り付け

手順

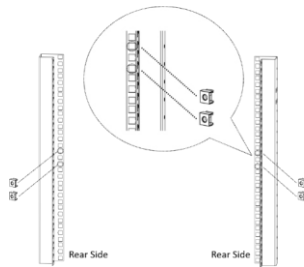
1. ラックの接地と安定性を確認してください。
2. パッケージに同梱されているM3またはM4のネジを使用して、2つのL字型ブラケットをデバイスの両側に固定してください。



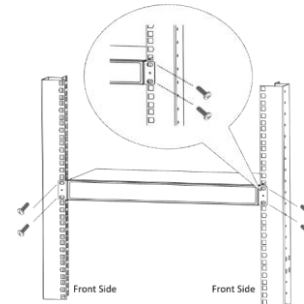
Note

L字型ブラケットを装置に固定するためのネジの数は、装置のモデルによって異なります。

3. 両側のラックの後部面に、それぞれM5またはM6のネジを2つずつ取り付けてください。



4. スイッチをラックに当て、L字型ブラケットの穴がナットを固定した穴と一致するように配置します。
5. 両側のラックの前面に、それぞれ2本の自己準備したM5またはM6のネジでブラケットを固定し、デバイスを安定して取り付けます。

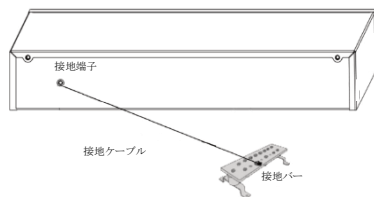


③ スイッチの接地

接地は、スイッチに雷によって引き起こされる過電圧や過電流を迅速に放電し、個人安全を保護するために使用されます。
必要に応じて適切な接地方法を選択してください。

▷ 接地バーを使用する場合

設置場所に接地バーが用意されている場合は、以下の手順に従ってください。

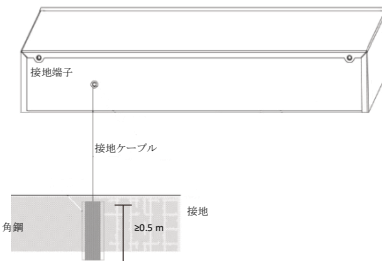


手順

1. 接地ケーブルの一端を接地バーの接地端子に接続します。
2. 接地ケーブルのもう一方の端を、機器の接地端子に接続し、ネジを固定します。

▷ 接地バーがない場合

接地バーがない場合でも、地面が近くにある場合で接地体が埋設可能な場合は、以下の手順に従ってください。



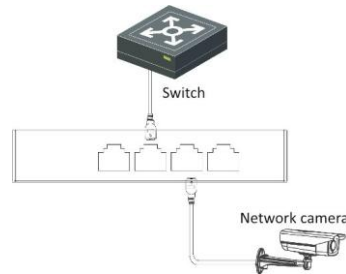
手順

1. アングル鋼または鋼管（0.5 m以上）を地面に埋設します。
2. 接地ケーブルの一端を角鋼または鋼管に溶接し、溶接部を電気めっきまたはコーティングで保護します。
3. 接地ケーブルのもう一方の端を、機器の接地端子に接続します。

④ スイッチを同等機器に接続する

▷ RJ45ポート

ネットワークケーブルを使用して、デバイスをIPカメラ（IPC）、ネットワークビデオレコーダー（NVR）、スイッチなど、同等のデバイスのRJ45ポートに接続します。



▷ SFP光ファイバーポート

デバイスに光ファイバーポートまたはコンポポートがある場合、光ファイバー接続用の光モジュールをそれぞれ光ファイバーポートに挿し込み、光ファイバーで接続します。

- ネットワークケーブルに接続されている場合、コンボはRJ45ポートとして機能します。
- 光モジュールを接続し、光ファイバーに接続した場合、コンボは光ファイバーポートとして機能します。
- ネットワークケーブルと光ファイバーを同時に接続した場合、コンボは光ファイバーポートとして機能します。

Caution

- シングルモード光モジュールはベアで接続する必要があります。
- 光ファイバーを過度に曲げないでください（曲げ半径 ≥ 10 cm）。
- 光ファイバーコネクタに直接目を向けないでください。レーザーは目に有害です。

手順

1. ベアになった2つのSFP光モジュールを光ファイバーで接続します。
2. SFP光モジュールの一方を持ち、SFPポートスロットにスムーズに差し込み、光モジュールとスイッチが密接に接するまで挿入します。
3. スイッチの電源をオンにし、LINK/ACTインジケータの状態を確認してください。
 - インジケータが点灯している場合、リンクが接続されています。
 - インジケータが消灯している場合、リンクは切断されています。回線を点検し、相手側のデバイスが起動していることを確認してください。

⑤ スイッチの電源をオンにする

付属の電源ケーブル（電源アダプターが付属している場合はそのアダプターも）を使用して、デバイスを電源に接続してください。スイッチの電源を入れる前に、以下の点を確認してください：

- 動作電源が定格入力規格に準拠していること。
- ポートケーブルと接地ケーブルが正しく接続されていること。
- 屋外配線がある場合は、ケーブルに避雷針と避雷器を接続してください。

Caution

PoEスイッチの場合、電源ケーブルとネットワークケーブルを一緒に配線しないでください。そうすると、PDまたはスイッチポートが焼損する可能性があります。

⑥ 追加情報

以下のQRコードをスキャンして、FAQの回答に関するサポートを迅速に取得してください。

